

外国人患者が地域で安心して受診できる仕組づくり支援事業

資料5-2

現状と課題

○外国人が症状に応じて安心して地域の医療機関に受診できる仕組が必要

- ◆外国人人口の多い区市町村（平成29年10月1日現在の人口、「東京都の統計」(総務局)より）
1位 新宿区(12.3%) 2位 豊島区(9.5%) 3位 荒川区(8.5%) 4位 港区(7.8%) 5位 台東区(7.3%)
- ◆訪都外国人旅行者の訪問先（「平成28年度国別外国人旅行者行動特性調査」(産業労働局)）
1位 新宿・大久保(56.9%) 2位 浅草(48.2%) 3位 銀座(48.1%) 4位 渋谷(43.9%) 5位 秋葉原(41.2%)
- ◆外国人宿泊者の多い区（「宿泊旅行統計調査」(JNTO)）※平成29年10月の外国人実宿泊者数
1位 港区(124,269人) 2位 千代田区(74,108人) 3位 新宿区(73,637人) 4位 中央区(71,600人) 5位 台東区(32,497人)

実施地区

平成30年度は以下3地域を想定。
3地域それぞれで事務局病院を選定する。

- ①新宿区周辺
- ②渋谷区・港区周辺
- ③台東区周辺

事業内容(案)

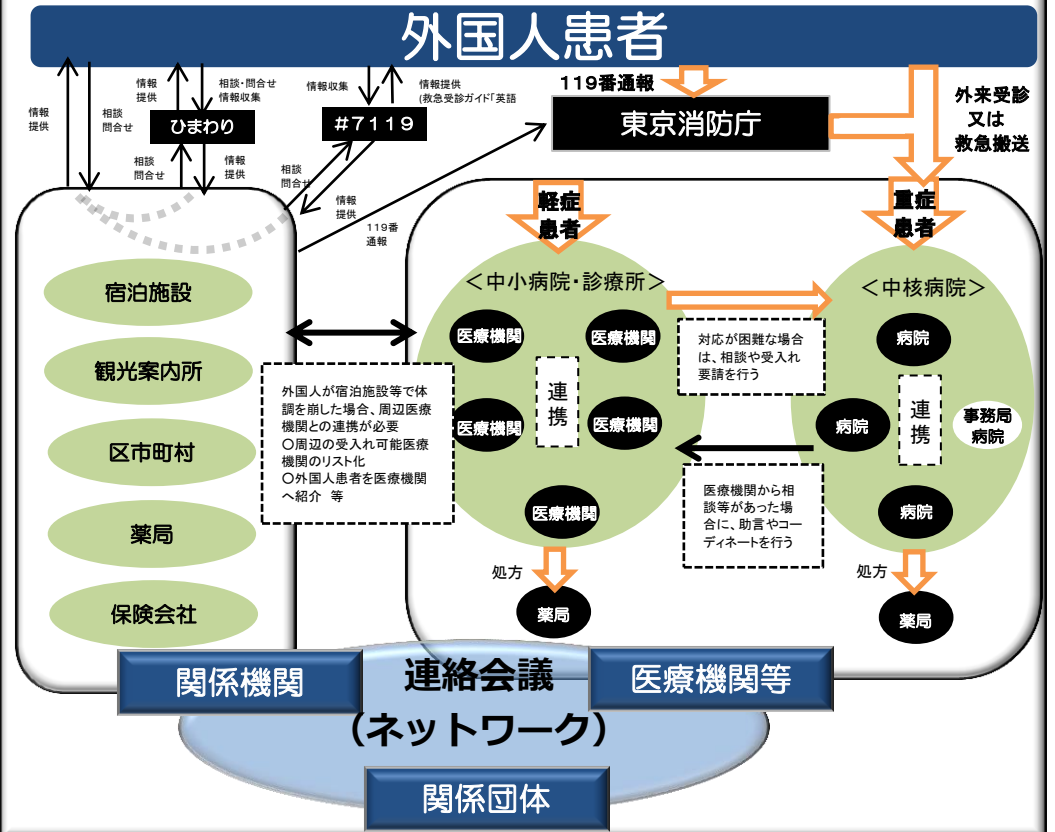
※地域により様々な現状・課題があるため、取組内容は地域により異なる。

特に外国人が多い地域において、地域の特色に応じた受入れ体制を構築する。

- 外国人患者受入れ体制の構築についての連絡会議
 - ・地域の関係者（医療機関・医師会等関係団体・区市町村・宿泊施設・薬局等）間の意見交換や情報共有を通じて連携の強化を図るとともに、地域の実状に応じた課題を抽出して、地域の特色に応じた外国人患者の受入れに関する仕組づくりを行い、取組を進める。
- ◆実態把握
 - ・外国人患者を受入れることができる医療機関及び外国人対応力の把握
 - ・宿泊施設等関係施設における外国人患者の対応状況の把握
- ◆外国人患者の受入れに関する仕組づくり (例)
 - ・中核病院に外国人患者を紹介する際のルール の確立
 - ・関係施設から医療機関に外国人患者を紹介する際のルール の確立
 - ・夜間、休日の対応方法
 - ・医療通訳の共同利用方式の構築 等
- ◆事業報告書・地域連携マニュアルの作成

→ 地域の特色に合った外国人患者の受入れに関する仕組を作り、地域の医療機関・関係施設が連携して外国人患者に対応できる体制を整える

イメージ図



実施方法

- ・実施地区において地域のネットワークの中核を担い、中心となって外国人患者の受入れの仕組づくりを行う病院を事務局病院として選定する。
- ・事務局病院を中心に、外国人患者の受入れ体制の中核となる病院(中核病院)を選定の上、地域の医療機関と宿泊施設等関係施設との連携した取組を進める。

平成30年度予算案

21,700,000 円